

POLE

北海道ポーランド文化協会会誌「ポーレ」

第27号 1994. 8. 10.

発行

北海道ポーランド文化協会
〒060 札幌市中央区南2西2

河合楽器製作所北海道支社内

TEL 011-231-8661

FAX 011-221-4936

第二十一回例会

講演会

「社会主義崩壊後ポーランドの生活世界」

北海道大学経済学部教授

吉野悦雄氏

日時 八月十九日(金)午後六時半

場所 かねて2・7

(北二条西七丁目植物園前)

電話 231-4111内線36-108)

吉野悦雄先生は、かれこれ十年近くのポーランド社会を観察してこられた経済学者です。先生の最近の文章から引用させていただきますと「おおかたの日本人のポーランドに関する知識といえば、一七九五年の三大帝国によるポーランド分割とキユーリー婦人とシヨバン、それに最近ではワレサさんの(連帯労組)と世界最初の社会主義崩壊、といったところでしょうか。要するにあまり

知られていないのです。一九九三年の選挙では旧共産主義勢力(現名称は民主左翼連合)が第一党に復活しましたが、日本の新聞誌上などでも納得できる解説はありませんでした。社会の動きを見るためには、政治や外交の動きだけではなく、もっと深い社会の底流を観察しなければなりません」とあります。このような理由から、先生は普通の人々の仕事と人生という観点から、ポーランド社

会を観察してこられました。

最近、ワルシャワ経済大学を訪問され、ポーランド社会の動きをつぶさに見てこられました。これは先生の二十一回目のポーランド訪問だそうですね。興味あるお話をお聴きすることができると思います。

多数の方のご来聴をお待ちしています。

考古学を学ぶ

アンナさん

ポーランドから北大に留学中のアンナ・ボージエクさんにインタビューをしました。

アンナさんはワルシャワから札幌へ来て、北大の研究生として考古学を専攻します。ポーランドの大学で日本の考古学を勉強して興味を抱きもつと深めたくて来日しました。

ポーランドでは大学二年の時からこの学科を選んで五年間勉強しました。日本の考古学は、日本学科という科の中に、言語学・文学・歴史の各学科があつて、そのうちの「歴史」の中が含まれます。

大学の日本学科に入学した学生は全部で二十人いますが、そのうち卒業できたのは十二人。それが全員女性だそうです。卒業できない人は大学をやめなければなりません。日本の大学のように留年はないのですね。それにしても学生に厳しいですね。卒業できたのが全員女性ときいて、

ポーランドの女性の實力にびっくりしました。

日本の大学に来たわけは、縄文時代についての卒論と口答試験がとてよよかったので、教授に、日本へ行ってもつと勉強してはどうかと言われたからです。それまで日本で勉強することなど全く考えてもいなかったのですが、そう言われてすぐに承諾の返事をしました。

卒業した十二人のうち、アンナさんともう一人が日本に来て、その一人は東京にいます。アンナさんは特に札幌を希望したわけではないのですが、文部省の決定でここに来ました。去年の六月に大学を卒業し、仕事を休職して今年の二月二十日頃に札幌へ来ました。

考古学の中でも特に縄文時代に興味があります。日常生活に使われた道具である石器や土器を研究しています。

毎日のくらしでは、食べ物はたいして何でも食べられますが、パンはポーランドのパンの方がいいそうです。住まいについては暖房が不十分で、家の中が寒く感じます。まだ来て間がないのでどこへも行っていない

いし、札幌についてもよくわからないということでした。
これからは発掘の実習もあるし、本も沢山読まなければならぬから毎日忙しくなりそうだと。
仕事は休職して来ましたが、ポーランドに戻ったら、ポーランドに進出した日本の会社などへの就職も可能だそうです。
ポーランドでも一般には待遇に男女差があります。差のないのは、教師・医師・ジャーナリスト等で、女性が多いですし、どうも日本よりポーランドの方が女性にとっては働き易いようです。

お会いしたアンナさんは、にこにこした若々しい方ですが、とてもシャイでインタビューはあまり好きではないようでした。でも上手な日本語で真剣に答えて下さいました。
来札間もない時のインタビューでしたのでわからないことも多かったと思います。今ならもう少しいろいろなこと答えて頂けたのでしょうか。

△文責 齊田▽



ボ文協が創立したときから会員が希望していたポーランド訪問旅行が実現されました。九月五日の出発です。参加者は、部分的な参加を含めて十三人となる予定です。

ひと足早く、ワルシヤワをご案内いたします。



ワルシヤワの観光は、まず王宮とジグムント三世の円柱がある王宮広場から始めるのが一般的の様です。広場は、クラコフスキエ・プシエドミチエ通りの北端にあり、旧市街の入口でもあります。

旧市街 (STARE MIASTO)

第二次世界大戦で、この街は、完全に破壊しつくされました。戦後ワルシヤワ市民の不屈の力と愛情で見事に復元されました。とても戦後復興された建物だとは思えないほど、永い時の流れを経て静かにたたずんでいるかのように思えます。

ここには、歴史博物館があり、ワルシヤワの歴史、旧市街に関する資料が展示されています。また、大戦のドキュメンタリーフィルムが上映されています。

王宮 (ZAMEK KRÓLEWSKI) (IRBATORSKI)

一五九六年、古都クラコフのバベル城が破壊され、ルネサンス様式のワルシヤワ城が正式の王宮となりました。

した(ワルシヤワに首都が移る)。

その後十七世紀中頃、スウェーデンに侵略され破壊されて、十八世紀に再建されました。ロシアに分割されていた時代は、ロシア皇帝を代表する侯爵の住まいになり、第二次世界大戦でまたも爆破されました。

一九七一年に復元工事が始まり、世界中のポーランド人の援助により一九七四年に外壁と屋根が完成、王宮の内部が再現されて、一般公開されるようになりました。

ワルシヤワ散歩



ジグムント三世の円柱 (KOLUMNY ZYGMUNTA)

ポーランドで一番古いモニュメント。一六四四年にプワジスワフ四世がクラコフからワルシヤワに都を移した父親ジグムント三世に敬意を表すために建立しました。

高さ約三十メートルの大理石の柱の上に王のブロンズ像が置かれています。昔は金メッキされていました。第二次世界大戦で破壊され、一九四九年に復元されました。

バルバカン (BARRAKA)

旧市街で一番有名な建物。バルバカンの形は中世期のヨーロッパでも珍しく、ゴシック後期の建物。十六世紀中頃、ベニスの建築家ジョン・バプチスがデザインしました。

聖ヨハンネ大聖堂 (KATEDRA ŚW. JANA)

ワルシヤワで宗教上の一番古い建築物。十四世紀末に建て始められ、最初は教区教会でしたが、一七九八年

年にカテドラルになりました。一三三九年にポーランド・チュトン騎士団の平和会議、スタニスワフ・レシユチニスキ王とスタニスワフ・アウグスト・ポニアトフスキ王の戴冠式、五月三日憲法の宣誓式などが行われた歴史的な場所です。

この大聖堂の正面は、ポーランドらしいマゾフシエゴシック様式で、三身廊、星形の丸天井など、見所がたくさんある教会の一つです。

カジメシヨフスキ宮殿 (PAŁAC KAZIMIERZOWSKI)

ワルシヤワ大学のキャンパスの中にあります。一六三四年プワジスワフ四世のために建てられ、夏の夏の憩いの場所として使われました。

オストログスキ宮殿 (PAŁAC OSTROGSKI)

十六世紀末に砦として使われていましたが、十七世紀末に宮殿として建て直されました。

一八五九年に、バイオリニストのアポリナリ・コンツキが音楽院を開き、九十年以上に渡り、シヨパン協会本部が置かれ、今日では、シヨパン・コンクール、コンサートといろいろなピアノリサイタルが開かれています。



ワルシヤワで一番美しいといわれるウヤズゾフ公園の中には、ウヤズドフスキ宮殿、ベルベデレ宮殿、ワジェンキ公園と宮殿、植物園などがあり、静かで木立の多いこのあたりは散歩に最適の場所です。

田隅靖子 ピアノリサイタル

ヤニェヴィッチ：変奏曲 ト長調(バイジェットの主題による)

F.JANIEWICZ Variation on a theme by Paisiello, in G major

シマノフスカ：ノクターン 変ロ長調

M.SZYMANOWSKA Nocturne in B-flat major

ショパン：舟歌 嬰へ長調 作品60

F.CHOPIN Barcarolle in F-sharp major, Op.60

：ポロネーズ 変イ長調 作品61「幻想」

Polonaise-fantaisie in A-flat major, Op.61

：二つのノクターン 作品62

2 Nocturnes Op.62

：三つのマズルカ 作品63

3 Mazurkas Op.63

ルトスワフスキ：ブコリキ(1952)

W.LUTOSŁAWSKI Bukoliki

セロツキ：プレリュード組曲(1952)

K.SEROCKI Suite of Preludes

パツェヴィッチ：ソナタ第2番(1953)

G.BACEWICZ Sonata for piano No.2

1994 8-26 (金) 6:30pm.

札幌ルーテルホール

札幌市中央区南大通西6丁目仲通り
地下鉄大通駅出入口1番より徒歩1分

¥2,000

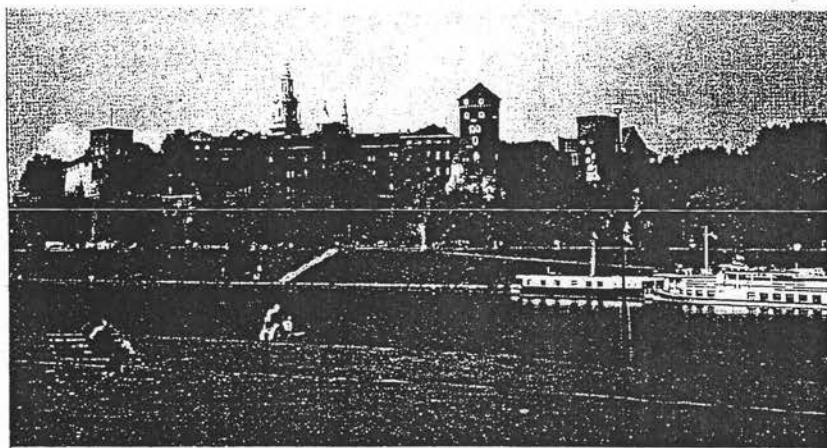
今秋、クラクフ「日本美術センタ
ー」建設基金コンサートを開催致し
ます。

ポーランドの映画監督、演出家と
して著名なアンジェイ・ワイダ氏の
京都賞を基金として「日本美術セン
ター」の建設が進められています
その一助ともなればと企画いたしま
した。ピアニスト 田隅靖子さん(京
都市立芸術大学教授)の賛同を得て、
ポーランド・ピアノ曲を並べたりサ
イタルです。

ポロネーズの夕べをお楽しみいた
だければ幸いです。ぜひ、お誘い合
わせの上ご来場賜りますよう、心か
らお願い申し上げます。

連絡先：國田祐作(TEL 814-7284)

(前号に続いて再掲)



ヴィスワ川の対岸にヴァヴェル王宮を望む建設予定地

ワジェンキ宮殿 (WAZIENKI)

ワジェンキはポーランド語で「浴
室」の意味で、ポーランド最後の王
スタニスワフ・アウグスト・ポニア
トフスキが一七六六年から九五年に
かけてこの公園にあった離宮に浴室
を建てたので、この名がつけました。

ヘルベデレ宮殿 (HELBEDERE)

一八一八年から二二二二年にクビツキ
のデザインによって建てられました。
「ヘルベデレ」はラテン語で美しい
眺めの意味。テラスから美しい風景
を眺められます。一九一八年から、
大統領官邸として使用されていて、
現在はワレサ大統領の住まいです。



「ポーレ」編集委員会

斎田道子・清水保子

吉田 宏

〔連絡先〕 621-1738 (斎田)

POLE 第 27 号(1994.8.10)目次

〈第 21 回例会〉「社会主義崩壊後ポーランドの生活世界」(吉野悦雄、1994.8.19)のお知らせ……………	1
斎田道子「考古学を学ぶアンナさん」……………	2
「ワルシャワ散歩」……………	3
田隅靖子ピアノリサイタル(1994.8.26)のお知らせ……………	4